

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (甲信越)	◎	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・会食、祝い、接待、法事等、いずれも平常に戻り、予約は活況である。
	◎	スナック（経営者）	来客数の動き	・宴会客が少し増えてきて、新型コロナウイルス感染症で店舗数が減ったこともあり、大分忙しくなっている。新型コロナウイルス感染症発生前のにぎわいにはまだ届かないものの、希望は持てる状況になっている。
	◎	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の5類移行後、旅行者がコロナ前の水準に戻ってきている。また、値上げについても、客が当たり前と思ってきたのか、物価や人件費の上昇分を価格転嫁しても、以前と同様に予約が入り、結果として価格上昇分の売上増加になっている。当地域では台風の影響がなかったため、キャンセルも余り出なかった。
	◎	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・前月から変わらずに好調が続いている。個人、法人問わず大人数での利用が多い。また、天候も過去にない晴天が続いたことで、非常に好調に推移している。宿泊については、旅行利用が非常に多く、連日満室近くで推移し、単価も上がったため新型コロナウイルス感染症発生前以上となっている。
	◎	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・8月の宿泊売上が、新型コロナウイルス感染症発生前の2019年度を超え、過去最高の売上となっている。理由としては8月に、当地での大きな祭りや花火大会、競馬、アイドル系コンサートや大規模会場でのイベント等があり、恩恵を受けて客室単価を押し上げている。また、好天にも恵まれ、8月のビヤガーデンは2019年度の売上を超えている。
	◎	遊園地（職員）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の5類移行や旅行機運が高い状況に加えて、新しいアトラクションのオープンや園内イベント等により、来客数が増加している。
	◎	その他サービス [葬祭業]（経営者）	お客様の様子	・今月は独居老人というか、1人暮らしの高齢者の葬儀が多い。葬儀というよりも火葬のみという感じのいわゆる直葬で、親族も遠方から1人だけという葬儀が半分くらいある。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・事前の報道等からも今夏には大きな期待を持っていたが、異常な暑さと1年の最繁忙期である旧盆期間の台風接近で、来客数は新型コロナウイルス感染症発生前の80%くらいである。
	○	スーパー（経営者）	それ以外	・8月25日時点で、売上は前年比15%増加、来客数は24%減少となっている。お盆時期の台風の影響が心配されたものの、幸運なことに当地をそれて、14日の盆踊りも予定どおり実施された。2か所の盆踊り会場からアイスクリームの納品を依頼されていたので、ほっとした。27日の日曜日には、地区で球技大会があり、新型コロナウイルス感染症発生前のように景品の酒やビールの納品、弁当注文、打ち上げのオードブルやビールの再注文と忙しかった。月後半も大型施設のイベント練習で、仕出し部門は忙しい。
	○	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・今年とはとにかく気温が高く、好天にも非常に恵まれている。冷たい物や暑さ対策商材が売れているため、売上はやや好調である。
	○	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・外国人観光客の増加で、やや良くなっている。
	○	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・猛暑で飲料、アイスなどの売行きが伸びている。夜も熱帯夜なので売上自体伸びている。
	○	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・消費量は増えたが、暑さの影響が大きい。
○	コンビニ（店長）	販売量の動き	・今月は暑い日が続いた分、客の動きが良いというか、暑くなったことで良くなった部分が大きい。3か月前と比べて、天候の関係でかなり良くなっている状況と行事が大分戻ってきたことも良い原因である。	
○	自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・前年割れが続いていた来客数が、今月に入り前年並みの水準に戻っている。	

○	観光名所（職員）	来客数の動き	・夏休み、特に、お盆の入込数は、新型コロナウイルス感染症発生前かそれ以上のにぎわいがみられた。
○	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	来客数の動き	・団体、個人利用共に、伸びている。
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・猛暑で外出は控えましょうと呼び掛けられていることも影響しているのか、お盆休みの中心地の人出は全く感じられない。どうしても買わねばならない商品が少ないためだろうか。
□	商店街（代表者）	販売量の動き	・学校を商売相手にしているため、毎年、新学期が始まる前は補充などで売れるが、今年の夏は、お盆、夏祭り等、いろいろ夏の行事があった割に、人は出ているものの販売につながることはほとんどなく、どうなっているのかと不思議に思うくらいである。
□	百貨店（店長）	販売量の動き	・ここ数か月、売上の大きな伸びも落ち込みもない。
□	スーパー（経営者）	単価の動き	・1品単価が上昇し、買上点数が減少するものの、客単価や来客数は安定している。
□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・ただでさえ夏場の消費は少ないのに、「ここまで暑いとスーツは着たくないし、作りたくもない」と客が話している。
□	家電量販店（店長）	来客数の動き	・猛暑が続き、季節商材の需要は高いまま推移しているが、来客数は前年の8割となっている。
□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の5類移行で来客数が増え、新車生産制約の緩和により販売台数も安定している。
□	乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・中古車両や修理に必要な部品が高騰している影響で、売上は増えているものの、利益は横ばいである。しかし、電気、水道といった料金の値上げにより、トータルでは利益が減少している。
□	スナック（経営者）	お客様の様子	・判断理由として「お客様の様子」を選んだが、来客数や販売量など他の選択肢も全てが当てはまる。とにかく景気は良くなく、地方は本当に困っている。
□	旅行代理店（副支店長）	来客数の動き	・旅行需要は回復傾向にあり、相談や受注が好調を維持している。個人客の需要は変わらず好調だが、団体の受注や実施についても増加している。
□	通信会社（社員）	販売量の動き	・特に大きく加入が増えているわけではなく、また、落ち込んでいないため、現状維持である。
□	ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・インフレ率以上の値上げをした競合他社は客足が遠のいているが、インフレ率を2.5%として売値反映させた当社は良心的とされ、前年以上の集客数となっており、結果としてインフレによるコスト増加分は吸収でき、大幅昇給も実現できている。創造的な成長志向を有する企業はいつの時代でも成長することができるため、景気の影響は受けにくい。
□	ゴルフ場（副支配人）	来客数の動き	・暑過ぎるせいか、来場者数は前年と比べ落ちている。物価上昇により土産や食事の金額が上がっているが、あえて低価格の物を購入しようとする客はそれほどみられない。
□	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・記録的な猛暑により来客数は増加しているものの、販売には結び付いていない。
▲	一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・このところの猛暑で、エアコン等の季節商材の動きはそこそこ良いものの、その場しのぎの商材選定で、高額な物や多様性のある商材の選定には至らない。単価上昇につながらず、当県独自の省エネ家電購入キャンペーンにも興味を示さない。
▲	百貨店（経理担当）	お客様の様子	・8月に入って1度も雨が降らず猛暑日が続くなか、シニア層の来店が少なくなっており、購買意欲も低減している様子である。
▲	その他専門店〔酒〕（店長）	お客様の様子	・台風7号がお盆時期に直撃し、当地には直接台風は来なかったものの、皆がいろいろと予定を変更したことが多少響いている。8月中は良かった方だが、月末に向かって、非常に良くない兆候が出てきている。身の回りの生活費、ガソリン代や諸物価が上がっていることを肌で感じているようで、財布のひもが非常に固くなっている。飲食店に行く回数も減りつつあるのではないかと。

	▲	タクシー運転手	販売量の動き	・今月に入って猛暑のせいか、人が動かない。毎月、前年比100%を超えているが、今月は100%ぎりぎりまで終わりで終わる。
	▲	設計事務所（職員）	来客数の動き	・たまっていた物件も作業が進み、落ち着いてきている。
	×	スーパー（副店長）	競争相手の様子	・多くの商材が値上がりし、客からは「高い」という声をよく聞く。その結果、買上点数が伸び悩んでいる。
企業 動向 関連  (甲信越)	◎	—	—	—
	○	食料品製造業（営業統括）	受注量や販売量の動き	・7月に引き続き、35度以上の猛暑日が続いている。
	○	金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・インバウンド需要の回復により、明らかに観光産業は回復傾向となっている。他の産業の景気回復は、物価上昇等の影響に左右される傾向があるため、全体としてはやや良くなっていると判断している。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新製品の発表で期待感はあったものの、直接的に利益にはつながっていない。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・注文はあるものの、短納期が多く、部品の入荷がぎりぎりのため、更に納期が厳しくなる。バランスが悪い。
	□	電気機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量が確保できている。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・資材の値上がりは続いているが、急激には上がらず徐々に上がっている。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・製造業のうち、これまで弱い動きが続いていた輸送用部品は持ち直しているものの、海外の需要減少で電子部品や電気機械分野にやや弱さがみられる。非製造業は観光関連が夏季需要増加で持ち直しているが、人手不足で稼働率を抑えた動きがみられる。
	▲	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月になって、30年以上続いた小売店が閉店した。コロナ後に客が戻らなかったことが原因である。8月は暑さのせいもあり、装身具の需要は伸びていない。一部店舗は地金の買取りや外国人バイヤーの購入で売上が上がっているものの、国内マーケットの低迷は深刻で、若者の需要を喚起できていない。
	×	食料品製造業（製造担当）	競争相手の様子	・同業者内では、今年度中に廃業するとか、事業の縮小、材料を国内産にシフトはするが価格はほぼ据置きだとか、良い話は聞かない。
雇用 関連  (甲信越)	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	人材派遣会社（営業担当）	雇用形態の様子	・最低賃金の上昇があるため、各企業苦勞している様子で、シフトなど人数を減らして原資確保に動く様子がうかがえる。採用についても、売上増加は見込めないため条件を変えて募集活動をしている。
	□	求人情報製作会社（総務担当）	求人数の動き	・どこも人が欲しいはずなのに、求人掲載する会社が前月、今月と減っている。どうしてこのような状況になっているのか分からない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人、有効求人共に、前年同月との比較では微減だが、人手不足が顕著な業種もあるため、変わらない。
	□	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・原材料の価格高騰や今後見込まれる人件費の上昇等、企業収益を圧迫する要因から一部業種で足踏み感が出ている。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・製造業においては求人数の減少がみられ、それに伴う派遣求人数の減少も見受けられる。原材料不足やエネルギー価格等の上昇、円安等との因果関係は定かではないが、増産体制にある製造業種が少ないことは明白であり、先行き不安から求人を手控えている企業も多いとみられる。
×	—	—	—	